

笄種類

笄 極上製ハ全白甲ナレドモ稀也、多クハ上製ト雖ドモ、尖ニ黒甲ヲ交ル、黒甲江戸ニテバラフ

ト云、京坂ニテハモクト云、或ハフト云、○中略

江戸ノ笄ハ、片端角、片端圓也、鬘テ後ニ圓ノ方ヨリ插シ貫ク也、

〔守貞漫稿二十〕十江戸吉原遊女之扮ハ、京坂ノ太夫天神ヨリ甚ダ華也、江戸市中ノ笄ハ、當時甚ダ短

カケレドモ、遊女ノ笄ハ、今モ長キヲ用ヒ、櫛モ甚ダ大形ナルヲ二枚サシ、○下略

〔人倫訓蒙圖彙四〕櫛挽 按、槩又これを商ふ、竹角、象牙、鯨のひれをもつて造る、

〔類聚雜要抄四〕一母屋調度

甲筥懸子納、○中略 髮搔、平、二、二、分、細、○中略

懸子納、○中略 平髮搔、四、兩、二、分、各、一、兩、三、朱、單、細、髮、搔、四、筋、四、兩、各、一、兩、單、功、八、疋、各、二、疋、○中略

〔雅亮裝束抄二〕わらは殿上のこと

か、げのはこのふたに、○中略ときぐし一枚、ひらかうがい、一つ、あふらつほにあふらわたいれて、

□こがたなひとつ、これらをか、げのはこのふたに、いれて、さうぞくにぐしてとりいだすなり、

〔松屋筆記百十二〕かうがい

老談記に、信長公より印とて、金○の髮搔○を給はりけり、其人の名をとひしに忘れしといへり、

〔紫式部日記〕臨時の祭の使は、との、權中將○藤原の君なり、○中略ありしはこのふたに、まろがね

のさうしばこをすへたり、かゝみをしいれて、ぢんのくし、白○がね○のかうがい○など、使のきみのび

んか、せ給べきけしきをまたり、○又見二榮花物語

〔西鶴織留〕古帳よりは十八人口

銀の笄に金紋を居させ、さんごじゆの前髪押へ、針がね入のはねもつとひ勿鬘○下略を掛て、

〔男色大鑑八〕心を染し香の圖は誰